

4・「生きる力」を支える社会科の知識・技能

(2)「転移する知識・技能をこそ」

熊本市立一新小学校 教諭：村上浩一

べなさい。

ここでは、「庄内空港」に注目させた

い。ほぼ東西方向に滑走路が描かれて

いる。航空機は、風上に向かって離着

陸をする。滑走路は、年間平均風配に

よって設計されているので、滑走路の

向きがその地の年間平均の風向きを示

していることになる。庄内地方では、

冬は北西の季節風が、夏は「清川だし」

と呼ばれる南東の局地風が吹いている

ようだ。□□□□□□□□□□□□□□□□

ようになっていいる。教科書には、「季節

風などによって運ばれてくる砂との長

いたたかいが・・・」という一文があ

る。防砂林の写真があるので、子ども

たちは海側から季節風が吹いてくるこ

とに気づくだろう。ここでは、地図を

読む「技能」として、ぜひ教科書に掲

載されている地図から季節風の風向を

探らせた。□□□□□□□□□□□□□□□□

【指示】「庄内平野の土地利用」

図を見て、この地方の風向きを調

は、庄内平野の土地と気候を学習する

スタートすることになっている。最初

教科書「5上」では、庄内平野から

□□□□二、地図から気候を読む力□□

□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□



□この記事は、西日本新聞のウェブページにアクセスして、見出しの検索をかければ、閲覧することが可能である

(西日本新聞2008・01・22)。もちろん、記事にはフリガナを打ったものを提示した。公民的分野は、現在進行形の学習内容でもあるので、教科書+αの知識を、新聞等々から身につけさせたいものである。それがとりもなおさず、「生きる力」につながっていく。

## 五、マインドマップ

マインドマップという手法は、知識を習得していく上での貴重な技能になると考える。様々な学習シーンで、この手法を採用すれば、学習の整理・まとめとして利用していくことができるだろう。特に、今回のような記事の内容を読み取らせるのにも、効果的であった。子どもたちは、上図のように整

理整頓していく中で、「介護」が抱えている現在の問題点や介護の種類等々の知識を得ることができる。

新聞には福祉関連の記事が載らない日がない。つまり、新聞は学習材料の宝庫である。新聞を読んで、マインドマップでまとめていく手法は、次のシーンでさらに「転移」していくことだろう。□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

## □□□六、絵画から歴史を読む力□□□

□教科書「6上」には、たくさんの歴史的絵画が載せられている。例えば、鎌倉時代の項には、「蒙古襲来絵詞」の一部が紹介してある。多くの教科書でほぼ同じ部分が載せられている。つまり、主役である竹崎季長が馬で駆けるシーンである。その左側には、元の兵士が3人載せられている絵画である。実はこのさらなる左側部分には、日本

軍が蒙古軍に勝った理由が隠されているのである。詳しくは、『日本絵巻大成』「蒙古襲来絵詞」(中央公論社)をご覧ください。

教科書掲載部分には、同じ民族と思われる3人の蒙古兵が載せられているのだが、さらなる左側部分には、この3人とは明らかに違う民族の兵士が描かれているのである。これはよく見ればわかるのだが、同じ蒙古軍でも肌の色も違えば、服装等々の身なりまで違うことが一目瞭然となり、

蒙古軍が敗戦国の混合部隊であったことが読み取れるであろう。言葉が違えば、指揮や意志の統一が思うように進まないという問題となったであろう。教科書の文章で日本軍が勝ったという事実を理解させるばかりでなく、絵画資料より歴史を読み取れる技能を身につけさせたい。詳細は避けるが、次のような視点を持たせて、解説させたい

ものである。□

【指示】この絵からわかることをノートに箇条書きにしていきなさい。

【視点】①人々の服装を見る（民族の違い・貧富の差が見える）

②人々の表情・言動を見る（状況を 읽むことができる）

③絵の中の文字を読む（地名・時代・何の絵かのヒントになる）

④絵の背景を見る（場所・天気・季節・音等々がわかる）

⑤虚偽の発見をする（作者が作ったものはないか、考える）

□

授業では、上記書籍の該当箇所をカ

ラーコピーして、黒板に絵巻状にしたものを提示して行った。子どもたちは、絵巻物に啞然としていたようだった。

## 七、マルチメディアの効用□□

□□とここで、歴史を「知る」とは、どういふことを言うのだろうか。前述した絵画の見方というのは、どちらかという「思考力」に入るのかもしれないが、最近ではダイナミックな歴史理解というのも考えるようになってきた。

それは、NHKの放送番組を見てからである。現在では、番組もかなり工夫されていて、番組に関する補助映像たる「クリップ」等のデジタルコンテンツも、ネット環境さえあればいつでも見られるようになっていく。「元軍との戦い」という8秒の映像を見れば、「当時は、このようにして戦っていたのか」という、歴史の醍醐味を味わうことが可能となっている。もちろん、これは「作品」であるので、どこまで信憑性があるかという問題は存在する

のだが、時代考証はされているだろう

から、一見の価値はあると考える。今

後は、これらのマルチメディアの利用

も視野に入れて、知識・技能の習得を

図っていきたいと考えている。それと

同時に、「メディアリテラシー」の力も

身につけさせていく必要があるのは言

うまでもないことである（映像につけ

る音によっても、受け取るイメージが

違ったりすること等々）。□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□以上、「生きる力」を支える社会科の

「知識・技能」とは、次の学習や日常

生活に「転移」する力と考え、教科書

の内容に沿って、論じてみた次第であ

る。これらは、一朝一夕に身につく力

でもないで、日々のたゆまぬ教材開

発こそが最も大事なのであろう。そこ

には、教師の「生きる力」が重要な

かもしれない。□□□□□□□□□□